

前回の陸上競技通信から約3週間、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。私は例年通りであれば夏風邪？梅雨風邪？をひく時期になりましたので、手洗いうがいをまめにしなければ、と用心しています。

さて、この間にとてもしょういお知らせができることになりました！それは・・・

望月真 三段跳でインターハイ全国大会 出場決定！！

唯一のインターハイ東海大会出場者である望月真が、なんと全国大会の切符を手に入れました。

東海大会の様子は、以下のとおりです。

戦績 (= 自己新)

6月20日(日)

インターハイ東海大会

(於：名古屋市瑞穂公園陸上競技場)

男子三段跳 第6位 望月真(3) 14m06(+1.7) 金

試合の様子

男子三段跳は全部で24人の出場者での戦いとなった。望月の大会前のランキングは9位で、通常は持ち記録の低い選手から跳躍するため、29人の後半で跳躍するが、今回、望月の試技順は7番目であった。これは、各県ランキングによる試技順の振り分けがなされているため、必ずしも記録順、という形にはならなかったものと思われる。

1回目はファール(記録なし)。しかし14m20cmほどは跳んでいそうな跳躍だった。2回目に14m06cmの自己記録を跳び、全体の4位につけた。その後は2名に記録を抜かれたが、6位で4回目以降の跳躍に進んだ。

この日の天候は安定していなく、雨が強くなったり弱くなったりする中での試合となった。特に最初の2回の跳躍では、試技順が後半の選手のとときに雨が強くなる、という、各県ランキング上位の選手にとっては不利な状況にあった。静岡県ランキング5位で出場した望月にとっては有利な状況であった。

4回目以降は、最初の3回の試技での上位8名の戦いとなる。このとき6位の望月と7位の選手との差は1cm。8位の選手との差は4cmであった。6位までが全国大会に進出できるため、この1cmの差、4cmの差が、沖縄までの距離である。

4回目以降、沖縄行きの最後の1席を争う3人は、唯一、望月が14m01cmを4回目で記録したが、それ以外は満足な記録を残すことができなかった。記録を狙う気持ち、全国大会へのプレッシャー、悪天候など、多くの要因が好記録を出すことを難しくしていた。

上位8名がすべての跳躍が終わったとき、上位5名の中での順位変動はあったが、結果的に最初の3回の試技での上位6名が全国大会を決めていた。

今回のすばらしい結果は、当然、本人のこれまでの努力や身につけた実力によるものであるが、それ以外にも試技順や天候、プレッシャーがかかったときの試合運びなど、いくつかの要因が味方をしてくれた部分もある。

今回の結果を踏まえた全国大会にむけての課題として、1回目の跳躍で記録を残すことが2回目以降を良い心理状態で挑むために必要となるだろう。また、技術的にもジャンプ(三段跳の3歩目)の改良やホップ(同1歩目)、ステップ(同2歩目)での姿勢の調節を心がけているため、これらの点についてあと1ヶ月の練習で取り組み、沖縄での好記録へつなげてほしいと思う。

